



あさまる通信

第29号 12月

発行：習志野販売株式会社
〒275-0016
千葉県習志野市津沼5-11-10 吉田ビル3F
TEL 047-454-2355 FAX 047-454-2357
URL <http://www.asamaru.com/>
e-mail info@asamaru.com

※プレゼントは裏面にあります。



【木版画年賀状講習会】
今季初めて冬の気配が感じられた11月16日(日) 菊田公民館で「木版画年賀状講習会」が行われました。これは菊田公民館のサークル「菊版会」が木版画に親しんでもらおうと20年程前から毎年、会員の方が指導して行っています。菊版会も創立33年を迎えており、先生が教えるという形を取らず皆でワイワイと木版画を楽しんでいらっしやるそうです。
木版画とは色ごとに版を作り、和紙に色を重ねていくことで一つの作品を仕上げるという物です。いわば浮世絵のような物を想像していただくといひでしょう。ただ浮世絵は「商業版画」なのに対し木版画は「創作版画」ということです。発想を自由に、そして風景や草花などジャンルにとらわれず自由に創作するのが楽しいのだそうです。
今回の参加者は41名でした。受付で板1枚、白ハガキ5枚、カーボン紙1枚、トレーシングペーパー2枚、ためし紙5枚を手渡され席に着きました。開始時刻は9時半からでしたが、9時すぎにはほとんどの方が集まり皆さんの創作意欲が伝わってきました。まずは見本の絵を24種類の中から自由に選びます。川田宏会長

の「毎年参加人数が増えて来て嬉しく思います。見本にとられず好きなように作って下さい。教えた人がてくすねをひいています。怪我のないように十分注意して楽しくやりましょう。」と挨拶があり、いよいよ木版画の始まりです。
まず見本をトレーシングペーパーに鉛筆で写します。それを板にカーボン紙を挟み彫る部分だけ転写します。1枚の板を4分割し4版まで彫れます。この板はシナベニアといっています。この時に注意しなければならぬのは、基本となるハガキの角を合わせるという事です。これをしないと後で刷る時に紙がずれて旨いきません。参加者の方は定規を使い慎重にハガキの角を作ります。さてこれらが問題です。見本の絵を気楽に選んだのはいいのですが、色分けをどうするか思案のしどころとなります。それにより版を作る順番や版の枚数が決まります。参加者の方々は会員の方に助けを求め、下絵を描いていききました。皆さん子供に返ったように悩みながらも楽しそうです。また黙々と作業する人、会員の方に1つ1つ相談する人と、それぞれでした。下絵が終われば彫りだすと一変、手を切らないように慎重に彫刻刀を進めます。会員の方のアドバイスや手直しを受け、掘り終わった所でお昼休みです。中にはお昼休

み返上で彫る方などもいらして真剣そのものです。彫り終わったら製版です。水を含ませた筆で、印刷面を濡らします。これはインクの乗りを良くする為です。インクは水を少なくし、刷り込むように専用の筆で木に乗せていきます。1版1版と刷るうちに自分だけの作品が出来上がります。きれいに刷り上ると「ヤッター」という歓声が上がると無邪気に喜んでいらっしやいました。皆さん笑顔で楽しい1日を過ごされたようです。参加者の中では毎年いらしている方もいて「12年前の申年の版がうちにもあるのよ」と嬉しそうに話して下さいました。また年々道具が増えていき「増えるだけで使いこなせない」と笑って話していらっしやいました。参加の動機も子供と一緒に刷りたいとか、温かみがありいいなどそれぞれでした。参加者の方の言葉で一番印象的だったのは「自分が作った木版画で年賀状を送るのが誇らしい」という言葉でした。



く思います。見本にとられず好きなように作って下さい。教えた人がてくすねをひいています。怪我のないように十分注意して楽しくやりましょう。」と挨拶があり、いよいよ木版画の始まりです。

馬頭観音

正式には「馬頭観世音」といい、仏教の六観音(千手・聖・馬頭・十一面・准胝・如意輪)の一つで、別名馬頭大士、馬頭明王とも呼ばれています。形は人身馬頭のもの、人頭馬上に馬頭を持つものとの二種類があります。習志野市にも幾つかの馬頭観音があります。これらは民間信仰の一形態で馬の無病息災を祈念するものや、馬と歩む道中の安全を祈ったり、また道半ばで力尽きた馬の冥福を祈ったりといった理由で馬頭観音が作られたのでしょう。当時、馬は農作業の効率化や、作物の運搬などに利用されていたほか、農閑期には東金街道や千葉街道などの街道筋で旅人の荷を運ぶ駄賃稼ぎにも使われていました。馬は昔の人々の生活の中になくしてはならないものでした。そういう馬を愛する心が人々に馬頭観音を作らせたのかもしれない。また馬には周囲の草をむさぼるように食べ水を一気に飲み干すことなどから、あらゆる悪を飲み込んで消滅させたり、人間の煩惱を食べつくして救済するという意味もあるようです。



写真：津沼5丁目の馬頭観音
市内には鷺沼の観音寺前、津沼6丁目、鷺沼3丁目などにわずかながら残っています。

加の動機も子供と一緒に刷りたいとか、温かみがありいいなどそれぞれでした。参加者の方の言葉で一番印象的だったのは「自分が作った木版画で年賀状を送るのが誇らしい」という言葉でした。



あさまる info

※子育て支援フェスタ
日時 11月30日(日) 午前10時から
会場 谷津公民館2F各室
内容 ①おはなし実技講演会
②おやつ作り体験
③団体ブース出展
④ベビーマッサージ他
プログラムには参加人数に限りがあり、事前予約が必要な有料プログラムもあります。詳しくは下記申込先までお問い合わせ下さい。
申込先 NPO法人 ならしの子ども劇場
電話&FAX 047-451-3676
(月~金 午前9時30分から午後4時30分)

※ちびっこクリスマス会
日時 12月13日(土) 午後1時30分~午後3時
場所 谷津公民館(申込不要)
内容 紙芝居、手品、工作、ふうせんおじさん等
対象 幼児・児童
※クリスマスコンサート(ロビーコンサート)
日時 12月21日(日) 午後2時~午後3時30分
会場 谷津公民館(申込不要)
出演 津沼ユニバーサル交響楽団
フリーマーケットに行こう
※サンプラザ商店街フェスタバザール
楽市フリーマーケット
日時 12月13日(土) 午前8時から
会場 京成線谷津駅北口広場
※ワイがやフリーマーケット
日時 12月14日(日) 午前9時から
会場 京成津沼駅南口ロータリー広場
みなさまからの情報もお待ちしております。

